

# 帰国報告会資料 (派遣生徒)

令和元年度登別市中学生ニュージーランド派遣交流事業

## マオリの食文化について

登別市立鷺別中学校2年 篠田 悠輝  
登別市立西陵中学校1年 小野 智章

私たちは、マオリ族の皆さんとの、2日間の交流体験プログラムを通じて、マオリの「食べ物」や「食文化」について調べてきました。●

## マオリの人たちの集会所「マラエ」

### 食事をするための建物「ファレカイ」



中はいたって普通の部屋。  
広い台所があり、外のベランダ  
にはドラム缶のような蒸し器

プログラム初日、「マラエ」というマオリ族の集会所の中にある、食べ物を食べる専用の建物で、食事をしました。その建物は「ファレカイ」と名付けられており、もともと、その部族の祖先の名前から付けられたということでした。建物は広い空間で、調理する場所が整っており、どこの「マラエ」にもあるそうです。マオリ族にとっては、食事は大切なことのひとつであり、食文化でも先祖を大切にすることを感しました。●



## ハンギの準備

かぼちゃ、ポテト、さつまいも、鶏肉、豚肉などがカゴに入っています。

今は土の中ではなく、ドラム缶のような蒸し器に入れて、じっくり蒸し上げます。

「ファレカイ」では、マオリ族の伝統食「ハンギ料理」を食べました。マオリ族でも、お祝い事など特別な日にしか、食べない食事だそうです。「ハンギ」は、もともと地面に穴を掘って、籠の中に様々な食材を入れて、その籠を穴に入れ、上から布をかけて、さらに、その上から土をかけて蒸した料理です。現在は、蒸し器などを使って、作られています。今回の「ハンギ」には、鶏肉、豚肉、じゃがいも、にんじん、かぼちゃ、グリーンピースとコーンのミックス、キャベツ、さつまいも、パンとオリーブオイルを混ぜ合わせたものが入っていました。●



## ハンギ料理

蒸し上がった食材をきれいに盛り付けて、出してくれました。

薄味で、素材の良さをそのまま味わう料理でした。

「ハンギ」の味ですが、鶏肉は蒸してあって、やわらかく、豚肉は脂身が多いものの、さっぱりしていました。さつまいもは口に入れた瞬間、とろけるような食感で、じゃがいもやかぼちゃは日本の煮物よりも、柔らかく食べやすかったです。味付けは薄味で、さっぱりしていました。この「ハンギ」は、食材と食材を混ぜ合わせるのではなく、食材そのものを蒸して料理にするのが特徴で、それは、食材そのものの味わいを楽しむ、という考え方からきています。

食べ方としては、基本的に、具材を豪快にそのまま食べますが、今回一緒にテーブルを囲んだマオリの人たちの中には、パンにバターを塗り、その上に具材を載せて食べている人や、味が薄いので塩をかけている人もいました。マオリ族の皆さんも、普段はニュージーランドに暮らしている他の人たちと、変わらない食生活をしています。「ハンギ」は、現代マオリの皆さんにとっても、少し薄味に感じるようです。調味料も少なく、素直に食材の味を楽しむ料理でした。日本での食事は、調味料を使うことが多く、味をごまかしがちですので、素材の味をそのまま味わう経験は貴重なものでした。●





昔は、家のすぐそばを流れている川で、  
魚やザリガニを獲って、食料にしていました。

しかし、外来種のマスが入ってきたため、  
元々いた魚がいなくなっていました。

また、環境汚染で川が汚れてしまい、  
食料を獲る場所ではなくなっていました。

また、昔のマオリ族は主食として鶏肉やパン、魚などを食べていました。川で「コラ」という魚や、ザリガニなどを獲る漁をしていた時期もありました。しかし、外来種のマスが川に入ってきたことと、環境汚染で川が汚れてしまったことで、漁はあまりできなくなってしまったということです。●

## フェイジョア



ニュージーランドで人気の果物

夏(12~2月)が旬の果物です。  
しかし、今回の滞在中は、  
あまり見かけませんでした。

アイスクリームやヨーグルトの  
フレーバーにもなっています。

その他に、マオリ族は木の実をよく食べます。「フェイジョア」というフルーツは、夏が旬で甘酸っぱい味が特徴のフルーツです。他にも「りんご」は多くの場所で栽培され、「バナナ」や「グレープフルーツ」も栽培されていました。●

## モコイア島でプラムを穫る

フェイジョアもそうですが、  
果物は、大切な食料。  
町中のあちこちにプラムの木が！  
モコイア島では、木の棒を投げて  
プラムの実を落として食べました。

写真は熟れて落ちたプラムが  
地面に散らばっている様子です。



2日目のモコイア島のプログラムでは、そのへんに落ちている、木の枝などを拾って  
投げ、木になっている「プラム」を、高い枝から落として食べました。木の実は大事な  
食料です。写真は、バスを停めた駐車場の横に、生えていたプラムの木から完熟の  
実がたくさん落ちていたところです。●



## ニュージーランドの食文化(おまけ)

新しい国のニュージーランドでは、特に決まった「ニュージーランド料理」は無いそうです。かわりにたくさんの移民が持ち込んだ、いろいろな国の料理があります。



ニュージーランド最後の夜に食べた「鉄板焼き」も、和食のようで、実は和食ではありません。「海外で生まれた」日本料理です。これも貴重な経験でした。

今回のニュージーランド訪問では、中華料理、パッフェ、写真の鉄板焼きなど、様々な食事を体験しました。ただ日本の「和食」のように「ニュージーランドならではの料理」は少ないことがわかりました。新しい国であり、イギリスの植民地だったことも影響しているようです。様々な国から移住してきた人が、みんなで暮らしていることから、各国の料理も本場の味が楽しめます。例えば、僕たちが移住することになっても、「日本食」など馴染みのある食事があるので、安心できるのではないかと感じました。他にも、ニュージーランドの肉牛は、自然放牧で、草を食べているため、脂もそれほど多くなく、ヘルシーで美味しいそうです。他の国では、栄養のある飼料を食べさせて育てるため、出荷までは2年ほどですが、ニュージーランドでは、自然の草を食べさせて育てるので、3年ほどかかるということです。●

## ニュージーランドのスーパーマーケット(おまけ)

日本のスーパーマーケットに比べてとにかく大きい！  
店も大きいし、肉や魚も1パックが大きかったです。



※食料品の買い物は  
週一回が普通。  
だから、一つ一つの  
商品のサイズが大きい  
のだと思います。



また、スーパーマーケットにも行きましたが、ニュージーランドでは1週間に1度、「まとめ買い」するのが習慣となっているため、食材のサイズが、日本に比べて大きいのが印象的でした。食パンなどは、日本の3斤分くらいの大きさに1斤、といった、日本の2~3倍くらいの大きさが普通でした。肉や大きな魚はブロック単位で販売されているほか、調味料もサイズの大きいものがたくさん売られていました。値段を初めて見た時、高いなと思いましたが、日本の何倍もの量なので、逆に割安なのかなと思いました。今回はあまり時間も無かったので、見られなかったものもいろいろあります。冷凍食品なども興味があるので、いつかまたニュージーランドに行くことがあったら、もっとゆっくり、じっくり見てみたいと思います。●

初めての機内食は・・・??

往路 Chicken or Beef?



チキン!

Egg or Salmon?



たまご!

思ったより  
美味しかったです!  
です!

復路 Chicken or Fish?



チキン!

Beef or Chicken?



ビーフ!

そして、僕たちにとって、初めての国際線で食べた機内食は、2種類からの選択に迷ったり、シートのテーブルが小さくて、食べにくかったりしました。でも思っていたより美味しかったです。水やジュースも定期的に配られたので、想像していたよりもずっと快適に過ごせました。●



伝統の「ハンギ」も食べることができて、  
たくさんの貴重な経験をした旅でした！



ごちそうさま  
でした！

今回の旅では、いろいろな経験をしました。マオリ伝統の「ハンギ」を、手間をかけて準備し、ごちそうしてもらえたのは、とてもありがたかったです。マオリの人たちと過ごして、大切な思い出ができました。●



ご清聴ありがとうございました！



ご清聴ありがとうございました。

令和元年度登別市中学生ニュージーランド派遣交流事業

## 日本とマオリの文化の違いについて

登別市立鷺別中学校2年 西館 愛音  
登別市立鷺別中学校2年 表 結羽

登別市立鷺別中学校2年 西館 愛音 です。  
登別市立鷺別中学校2年 表 結羽 です。

私たちは、今回のニュージーランド訪問で、日本とマオリの文化の違いを見て来よう決めました。マオリの方たちと直接関わった2日間のプログラムでいろいろ感じたことや知ったこと、共通点、違う点をいろいろご紹介します。●

## 始めに必ず「お祈り」

食事の時も、船に乗る時も何かをする前には必ずお祈りをしていました。



まず始めに驚いたのは、建物に入る時にも、きちんとしたルールがあったことです。建物に入る順番は女性、男性の順で、席に着くのは男性が前列、女性が後列でした。これはどこへ行っても変わらないルールのようにです。また、食事を始める前や船に乗る前など、何かをする前には必ず全員でお祈りをしていました。日本では食事の時、「いただきます。」で始まり、食べ終わったら「ごちそうさまでした。」で締めますが、マオリの場合は終わりのお祈りはありませんでした。そのため、それぞれ食事が終わると、ばらばらに席を立っていたのが、日本とは違うところでした。●



## マオリの建物

人の顔の彫刻が建物の一番上の真ん中にあり、両側の屋根は広げた腕という意味があるそうです。



マオリの建物は、日本の家とは全く違いました。屋根の真ん中には人の顔の彫刻があり、その人の腕が屋根として伸びているという意味があるそうです。●



## 建物の特徴

独特な彫刻で飾られている建物は、それぞれ必ず名前がつけられていました。先祖の名前だったり、英雄の名前だったり…



また、柱や入口の周り、天井の梁が、マオリ独特の模様や人間の形の彫刻で飾られていて、色も赤や黄色と鮮やかで、そしてそれぞれの建物に先祖やマオリの勇者の名前が付けられていました。●

## 入れ墨 ～男性編～



酋長さんは、顔全体に入れ墨をしていました！  
入れ墨には意味があり、属する部族などを表しているそうです。

同じ人！



私たちが会ったマオリの酋長さんは、顔全体に入れ墨を入れていましたが、その模様にも意味があり、所属する部族などを表しているそうです。顔全体に入れ墨のある人はその近隣では、たった5人しかいないということでした。●

## 入れ墨 ～女性編～

口の周りの入れ墨は、結婚している女性であることを示しています。

写真の女性は、背中にもマオリ独特の模様が入れ墨があります。彼女は、口の周りにも入れ墨がありました。



アイヌの人達と同じだなと思ったのは、どちらも結婚している女性は口の周りに入れ墨を入れるということでした。ただ、それは昔の話で、今は全員がそうしているわけではありません。●



## 世界最大の飛べない鳥「モア」と、エコな暮らし



「モア」は、既に絶滅してしまいました。写真はオークランド博物館に展示されていたはく製です。

昔のマオリ族は、モアをはじめとした鳥の肉を食料として食べたあと、その皮や羽を衣服に利用していたそうです。

捕まえた獲物を無駄にせず、上手に利用していたのは、エコな生活の原点だなと思いました。

また、マオリの人たちは、現在も生きていたら世界最大の鳥であった「モア」の肉を食べた後、その皮や羽毛で着るものを作っていました。アイヌの人たちはシャケを食べたあと、その皮で靴を作っていました。どちらも狩りで捕まえた獲物を上手に利用し、最後まで無駄にしないという、エコの原点ともいえる生活をしていたのだなと思いました。●



## 温泉♨のある暮らし



交流をしたマオリの人たちが  
住む町は、至る所で温泉が  
湧いていました。  
危ないので、囲いがあったり、  
フタがしてあったり・・・

毎日入る人もいます。



これもお湯♨の  
湧いている所

また、庭に温泉がある家も多く、町の中を歩いている時もよく見かけました。毎日温泉に入る人もたくさんいるそうです。辺りの空気の匂いも、登別と似ていて、とても親近感がわきました。ニュージーランドでは、温泉に水着を着て入るのが普通です。●

## 足湯のある公園



マオリの人たちとの交流後、バスで行った大きな公園には無料の足湯がありました。

たくさんの方が、足浴を楽しんでいました。

※ただし、冷たい足湯でした。

交流プログラム後に訪れた大きな公園には、足湯がありました。その日は、たくさん歩いたあとだったので、とても気持ちよく、足の疲れが癒されました。ただし、そこは登別と違い、冷たい足湯でした。●



## 家族で受け継ぐ伝統



小さな子供たちも、みんなきちんと、マオリ語でお祈りができていました。

家族の中で、大切に伝統を受け継いでいると感じました。



昔、マオリもアイヌも、後から入ってきた人たちに、自分たちの土地を侵略され、文化や習慣を否定された似たような歴史があります。アイヌの人たちの中には自分がアイヌであることを隠している人もいるそうですが、私たちの会ったマオリの人たちは、どの人も自分たちがマオリの民族であることをとても誇りに思っていて、隠すようなところは少しもありませんでした。こういうところが、ニュージーランドが民族共生の先進国であると言われる理由の一つではないかと感じました。私たちの訪問を受け入れてくれたマオリの大家族は、大人はもちろんのこと、私たちと同年代の子たちも、もっと小さい小学校低学年位の子でさえも、マオリ語で歌を歌い、お祈りもきちんと出来ていました。家族の中で、伝統や習慣をきちんと次の世代に伝えているように見えました。日本でももっと、そのようになっていけば、アイヌの文化や伝統も失われることなく、未来に伝えていけるのではないのでしょうか？ ●



## 「ホンギ」でお別れ

マオリ独特の挨拶「ホンギ」

鼻の頭を2回くっつけ合います。

最後のお別れの時、全員で一列に並んで、順番に「ホンギ」であいさつをしました！

ドキドキしましたが、心が温くなる特別な体験でした。



最後に、鼻の頭を2回くっつけ合うマオリ独特の挨拶「ホンギ」を、全員並んで順番に行い、お別れをしてきました。ちょっぴり緊張しましたが、心が温くなる特別な体験でした。●

## 誇りを持って生きるマオリの人達に出会えて良かったです！



今回、誇りを持って生きているマオリの人たちに会えて、交流が出来て、とても良かったです。日本での民族共生のために自分たちは何ができるのか、これからみんな考えていきたいと思っています。●

ご清聴ありがとうございました！



ご清聴ありがとうございました。



# マオリの音楽・神話・宗教

登別市立緑陽中学校

2年

成田 葵

北海道登別明日中等教育学校

3回生

大森 春歩

●登別市立緑陽中学校 2年 成田 葵です

●北海道登別明日中等教育学校 3回生 大森 春歩 です

私たちは「マオリの音楽・神話・宗教」について調べてきました。



## マオリの音楽 ♪-1-

- 明るく軽やかなイメージの音楽
- 無人島へ行くときにもギターを持ち込む
- 8歳くらいの小さな子もフルートを吹ける
- ホラ貝を所有（マイホラ貝！）  
⇒幼少期からとても親しみがある！



まずは、「音楽」についてです。今回の研修では歌と楽器に触れる機会がありました。●

歓迎の時に聞いた歌は、明るく軽やかなイメージの音楽が多かったです。ウクレレで演奏されるハワイの音楽に似ているように感じました。楽器については、とても親しまれているようで、無人島へ行くときにもギターを持ち込み、暇さえあれば弾いていました。

また、小さいころから楽器に触れて育っているため、現地の人は誰でも楽器が弾けるようで、8歳くらいの小さな子もフルートを吹けるほど親しまれていて驚きました。●

日本よりも楽器が身近な存在なんだと思いました。

人によっては楽器としてホラ貝を持っている人もいます。●

## マオリの音楽 ♪-2-

### <楽器について知ったこと>

○フルートは昔は**人骨**で作られていた  
(!?)

今は鹿、犬、山羊などの骨で作られている

○ホラ貝は客人の**来訪を告げる笛**として  
使用

歓迎する際にも使用する



私たちもマオリとの交流1日目に練習用のフルートやホラ貝を吹かせていただきましたが、うまく音が出せませんでした。●

楽器に触れた時に教えていただいたのですが、昔は人骨でフルートを作っていたそうです。今はもちろん人骨ではありません。鹿、犬、山羊などの骨で作っているそうです。ですが、鹿なんかは捕まえるのも難しいため、海の生き物でもフルートを作れるのかという研究もしているそうです。聞かせていただいた音色の中で、くじらの歯の骨で作られたフルートは高い音でした。骨によって音色が違うことを知りました。

また、ホラ貝は歓迎する際に使用する楽器でもありますが、客人の来訪を告げる際の笛の役割もあったそうです。●



# マオリの音楽 ♪-3-

＜楽器が身近になった理由＞  
このあとに説明する「神話」にも  
つながりますが・・・

キーワードは・・・  
ツタネカイ  
&  
ヒネモア



これほど楽器が身近になったことにも理由があります。●

私たちの研修テーマの1つである「神話」にも関わってくるのですが、昔、モコイア島に住んでいたツタネカイという男性と湖のほとりに住んでいたヒネモアという女性の恋の物語を教えてくださいました。●その神話は、この二人が身分違いの恋をするというところから始まります。●

## マオリの音楽 ♪-4-

### - ツタネカイ

- モコイア島に住んでいた人
- ヒネモアに恋する男性
- フルートで想いを伝えた



- ツタネカイはヒネモアへの想いを伝えるため、フルートを吹いていました。
- モコイア島は、洞爺湖町にある中島の4分の1の大きさの島で、ロトルア湖の外周も洞爺湖とほぼ同じだそうです。 ●

# マオリの音楽 ♪-5-

## –ヒネモア

- 湖のほとりに住んでいる女性
- ツタネカイの想い人
- モコイア島まで泳げる体力のある人



●ヒネモアは湖畔から島まで、ツタネカイの想いに応えるため泳いで渡り、想いを伝えたそうです。 ●

男性であるツタネカイが湖を泳ぎ切るのであれば納得もしますが、この神話では女性であるヒネモアが泳ぎ切っていて、とても大胆な女性だったんだなと思いました。

昔は男性のみが楽器を弾くことを許されていたそうです。その後、後世へ伝えていくために女性も弾くようになりました。この神話の影響でフルートは恋の歌に使われるようになったそうです。 ●

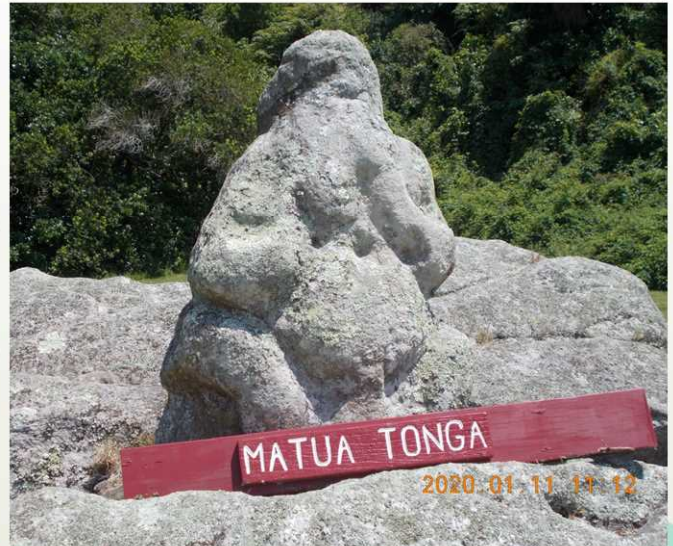


# 神話と宗教-1-

– モコイア島で発見！  
マツアトンガという女神像

実は、マオリ族の主食である  
**サツマイモの神様**です！

ポリネシア時代には既にマオリ族が持っていたそうです



次に「神話」と「宗教」についてお話ししたいと思います。

●モコイア島にマツアトンガという女神の像があったのですが、この女神は「さつまいも」の神様だそうです。

●マオリ族はポリネシア時代から始まるのですが、その頃には既にこの像を持っていたと言われていました。

今もとても大事にしているそうで、博物館へ寄贈する話も出たのですが、マオリ族としてはモコイア島にこの像があって欲しいということで、今も博物館に寄贈はされていません。

また、この女神像の前には、昔はマオリ族の主食であるさつまいも畑が広がっていたそうです。

今は平原となってしまいましたが、ここに再びさつまいも畑を作ろうという計画があるそうです。●

## 神話と宗教-2-

### - タンガロアの仮面

右の写真はホテルにあったものです。  
気になって調べてみました。

- ポリネシア地域で広く大切にされている海の神様
- 地域によっては創造神として崇められている

余談ですが・・・

日本水産がニュージーランドからこの神様の像をもらったそうです。



●ホテルにはタンガロアという神様の仮面がありました。

●どういものなのか興味がわいたので、日本に帰った後に少し調べてみました。

タンガロアはポリネシア地域で広く大切にされている海の神様で、場所によっては、創造神として崇められています。マオリにおいても重要視されており、信仰の対象となっています。

●余談ですが、日本水産がニュージーランドからこの神様の像をもらったそうです。 ●

## 神話と宗教-3-

### ー タネマフタとキウイ

タネマフタは森の神様であり、現存する最古の木です。

昔、タネマフタが枯れている木を発見しました。地上を這い回る虫が原因でした。そこでタネマフタは、

空の神様に頼み、鳥を集めてもらって虫を駆除しようと考えました。しかし、なかなか承諾してくれる鳥は現れません。そして、最後に残ったキウイへ空の神様がお願いしたところ、キウイは「やります」と答えました。キウイには美しい翼がありましたが、虫の駆除を行うためにはその翼を捨てて、代わりに立派な脚をもって地上に降りねばなりません。キウイの意思は変わりません。空の神様はキウイの言葉に感動し、「最も愛される鳥となるだろう」と告げました。その言葉どおり、現在もキウイはニュージーランドで最も愛される鳥になっています。



レインボースプリングスで見ることができる「カウリ」という種類の古代樹についても話を聞きました。この木はニュージーランド最古の木であり、マオリには「タネマフタ」と呼ばれています。タネマフタは森の神様のことだそうです。

●ニュージーランドの国鳥であるキウイの神話に、このタネマフタが登場します。

●昔、タネマフタが枯れている木を発見しました。何故枯れたのか、その原因を調べてみると、地上を這い回る虫が原因だと判明しました。そのため、森の神様は空の神様に頼み、鳥を集めてもらって虫を駆除しようと考えました。

空の神様は鳥を集め、順番に虫の駆除をお願いしました。しかし、どの鳥も承諾してくれませんでした。そして最後に残ったキウイにお願いしたところ、キウイからは「やります」と、承諾がもらえました。

キウイには美しい翼がありましたが、虫の駆除を行うためにはその翼を捨てて、代わりに立派な脚をもって地上に降りねばなりません。空の神様の話を聞いたキウイは「それでもやります」と答えました。

空の神様はキウイの言葉に感動し、「もっとも愛される鳥となるだろう」と告げました。

その言葉どおり、現在もキウイはニュージーランドで最も愛される鳥になっています。 ●





## 神話と宗教-4-

### アイヌ民族とマオリ族との共通点

#### ○フクロウは大切な存在

マオリ族にとっては森の番人です。一方、アイヌ民族にとっては村の守護者です。どちらの民族でも「フクロウ」は大切な存在でした。



#### ○アニミズム

すべての物に神様が宿るという考え方をしています。

#### ○言語や風習

文字が無く、口の形と声のみで意思疎通をしていました。口の周りにタトゥーを入れる風習がありました。

キウイのほかにも動物に関連したものがあるか調べたところ、フクロウが大事な存在であることがわかりました。●

マオリ族にとって「フクロウ」は森の番人のような存在だそうです。アイヌ民族にとっても「フクロウ」は村の守護者のような存在ですので、そういった部分は似ていると感じました。

私が現地で聞いたこと、日本に帰ってきてから知ったことなどから、マオリとアイヌの宗教的な共通点に気がつきました。●

すべての物に神様が宿るという考え方は「アニミズム」と言うそうです。

アイヌとマオリはまさにこの「アニミズム」だと思います。

先ほどお話ししたタネマフタのように、木でありながら神様とされていたり、フクロウでありながら番人や守護者として大切にされていたりと、物や動物を擬人化して神として信仰しているところは共通している部分だと思いました。

最後になりますが、アイヌ民族とマオリ族の共通点をあと少しだけお話します。●

マオリ族の言語についてです。マオリ族には文字が無く、口の形と声のみで意思疎通をしていたため、言語の解明のためにローマ字を当てたそうです。アイヌ語でも同じですね。ちなみに、マオリ族の言葉は、母音が「a(あ)」「e(え)」「i(い)」「o(お)」「u(う)」で、母音に1単語つけてローマ字読みに近い発音の仕方をするそうです。日本だと「a(あ)」「i(い)」「u(う)」「e(え)」「o(お)」になりますね。

また、アイヌ民族の女性は口の周りにタトゥーを入れる風習がありますが、それと似ていて、マオリ族の女性は唇から顎にかけてタトゥーを入れるそうです。タトゥーを入れることにも意味があり、地位を表しているとのことでした。 ●



## 最後に

今回の研修で、まったく違う民族のはずなのに、共通点を見つけて驚いたり、実際に楽器に触らせていただいたりと、とても貴重な体験をすることができました。

もう少し聞いてみたいこともありましたし、自分で調べてみたいとも思いました。

このような貴重な体験ができてとても良かったです。



私たちはニュージーランドで「マオリの音楽・宗教・神話」について、いろいろなお話を聞き、マオリ族とアイヌ民族とはまったく違う民族のはずなのに、共通点を見つけて驚いたり、実際に楽器に触らせていただいたりと、とても貴重な体験をすることができました。もう少し聞いてみたいこともありましたし、自分で調べてみたいとも思いました。あっという間に終わってしまったように感じますが、このような貴重な体験ができてとても良かったです。 ●

**ご静聴ありがとうございました。**



**これで私たちの発表を終わります。 ●  
ご静聴ありがとうございました。**